

新居浜の

産業遺産物語

物語①

四通橋



現在の四通橋



昭和30年代の四通橋(別子銅山記念館所蔵)

四通橋は、大正8年に足谷川に架設された鉄製トラス橋です。第四通洞と端出場の鉱山事務所などを結ぶ橋として、昭和48年の閉山まで使用されました。

大正4年に完成した第四通洞は、端出場の坑口(海拔約156m)から大立坑(第三通洞と第四通洞を結ぶ立坑)まで4596mの鉱石運搬坑道です。その後、昭和17年に貫通した探鉱通洞(大立坑と筏津の下部を結ぶ)と連結し、全長約10kmの大通洞となりました。

四通橋には複線のレールが敷かれ、毎日約1000人の鉱夫たちが坑内電車で四通橋を渡り、第四通洞から入出坑しました。また、大正12年には第四通洞から坑内水を排出するための排水管が併設されており坑水路(現在の下部鉄道跡)につながっています。

このたび、所有者である住友金属鉱山株式会社によってリニューアル工事が実施され、令和7年12月に完成しました。別子銅山の歴史を未来へ伝える、貴重な産業遺産の一つです。

別子銅山文化遺産課 ☎ 65 - 1236

広告欄